

# 札幌市議団ニュース

2012年10月12日 No.61

日本共産党市議団事務局発行  
電話 211-3221 FAX218-5124

## 第3回定例議会 決算特別委員会・論戦特集 (2)

### <井上ひさ子議員>

## ただ積むだけでなく基金は活用し、 市営住宅の家賃減免縮小は取り止めよ

保育料の値上げ、市営住宅の値上げなど市民負担を強いる一方で、札幌市の基金(22)は、'11年度決算で総額2789億円に達しています。

**井上議員**はこの問題を取り上げ「2011年度決算で基金残高は2789億円。'10年度は35億円の取り崩しを予定していたが、使い残した。市民要望に応じて積極的に取り崩してはどうか」と質しました。

**村山財政部長**は「今後、現金部分の半分を支消することとしているが、基金は限りある財源なので取り崩しが過大にならないように十分留意をしていく」と答弁しました。

**井上議員**はさらに「何にでも使える土地開発基金は'11年度決算で676億円に達し、まちづくり基金は学校改築や公園などに活用されているが'10年度には70億円も積まれている。どこまで積むのか。一方、保育料は値上げされ、今度は家賃減免の縮小が狙われている。いずれも、市民の反対が強いもので、市民生活には打撃だ!。“財政が厳しい”ことを理由にしているが、こんな時だから基金を活用し、市営住宅の家賃減免の縮小は取り止めるべきではないのか」と迫りました。

**村山財政部長**は「基金は持続可能な財政構造を実現するまでのつなぎ的なものという捉え方をしている。また行政サービスについても持続可能な充実した取り組みにしていくため、市営住宅の家賃減免についても、一定程度の受益者負担をいただくことにしている」との答弁にとどまりました。(2012.10.4)

### <伊藤理智子議員>

## 滞納者が生活を再建しつつ、 税金を払えるようにするのが本筋だ

札幌市の市税滞納者は、'11年度で9.9万件を超え、差し押え件数も8,887件に達しています。一方、今年に入って孤立死(白石区、西区)という痛ましい事件が相次いでいます。こうした孤立死をなくするためにも、料金滞納の実態を把握している窓口(財政局では税務の窓口)が、ゲートキーパーとしての役割を果たすことが強く求められています。

**伊藤議員**はこの問題で「滞納者は生活が破綻しているケースが多いと思うが、生活を再建しつつ税金を払えるようになるのが本筋だ。ゲートキーパーとしての必要な知識や、滞納者の生活ぶりを見て“この人には

⇒ 裏面につづく

支援が必要だ”と気づくための、基本研修の実施が求められていると考えるが、どうか」と質しました。

**畠山税政部長**は「ゲートキーパーとしての研修はやっていないが、一般的な接遇の研修はやっている。ただし、個別の生死に関わるような場合は、職務を超えて対応している、また多重債務の方には、ケース別に適切に対応をしていく方向で検討している」と答弁しました。

**伊藤議員**は「滞納者は、払えないから、払える見通しが無いから窓口に行けない、連絡もできないというケースが多い。“連絡を入れない”ということで誠意が無いと勝手に結論づけて差し押えていないのかどうか、危惧される所だ。その点で、職員の受け止め方も重要になる。“滞納者の生活再建を支援することで税金を払えるようにすることが私たち職員の役割”という気持ちで仕事に当たるべきではないか」と再度迫りました。

**畠山税政部長**は「納税の窓口の仕事は滞納分をどう納入していただくかの相談が主。立ち入ると気分を害する方もいるデリケートな面もあるので、職務にゲートキーパーの役割を課すとなれば義務と責任が伴うので簡単ではない」と強弁しました。

**伊藤議員**は「払えるのに払わない悪質滞納者以外は、差し押さえるべきではない。市税の窓口でもゲートキーパーの役割を果たす、生活保護の相談チラシを窓口に置く、滞納者が生活を再建し税金も払えるようにしていく、その支援が市税事務所の職員の任務であることを研修でしっかりと位置づけていくことなど」を、最後に強く求めて締め括りました。(2012. 10. 4)